令和８年度
「市議会による行政評価」からの提言書

～いいだ未来デザイン2028「後期計画」の評価及び検証からの提言～

令和８年９月29日

飯　田　市　議　会

１　議会による行政評価の目的

令和８年度の「議会による行政評価」は、

- 飯田市自治基本条例第22条の規定に即し、市の執行機関の活動を監視することによって適正な行政運営の確保に努めること
- 議決事件とした基本構想基本計画の進行管理に関与することで、議会としての責任を果たすこと
- 決算期に基本構想基本計画の体系を踏まえて政策の評価を行い、その結果を次の予算審議時に反映させる行政評価の手法を用いた政策サイクルを実現すること

を　目的に実施した。

２　令和８年度の取組経過

いいだ未来デザイン2028後期計画初年度（令和７年度）の議会による行政評価では、基本目標１から３について、構成する戦略計画や小戦略（年度戦略）が、総務、社会文教、産業建設の各分科会に跨ることから、全委員が参加する全体会を７月21日に開催し、説明を受け質疑を行った。引き続き、基本目標４から７までは、担当する各分科会において説明を受け質疑を行った。

各分科会は、評価の確認及び意見を集約（８月４日）し、９月定例会の予算決算委員会前期全体会（９月11日）において全委員で意見の集約状況を共有するとともに、各マネジメントリーダーに提示し、必要に応じて担当部課長との意見交換を行った。

各分科会において取りまとめた評価及び提言内容については、予算決算委員会後期全体会（９月28日）において全委員で共有し、９月29日の本会議において決定した。

主な評価の視点

- 基本目標の評価は、年度戦略（小戦略）の評価から基本目標を仰視する。
- 戦略の評価において、令和９年度へ向けた新たな視点がある場合は提言につなげる。
- 小戦略(年度戦略)の評価及び事務事業の個別評価はしないものの「決算認定」及び「予算審査」につなげる。

３　評価及び提言について

「後期計画１年間の総括」の評価については、全ての基本目標において「概ね妥当」と評価し、その理由及び提言があれば基本目標毎に記載した。

また、「戦略（考え方）の到達点」及び「次年度戦略策定に向けた課題と今後の方向性について」は、評価の理由及び令和９年度の計画策定に必要な視点があれば記載した。

基本目標１	市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める	P. 1
基本目標２	人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる	P. 6
基本目標３	飯田で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる	P. 9
基本目標４	自然と共に歩む豊かな循環型社会をつくる	P.13
基本目標５	誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる	P.15
基本目標６	誰もが生涯を通じてその人らしく暮らすまちをつくる	P.18
基本目標７	リニア・三遠南信道時代に向けたまちの基盤をつくる	P.20

基本目標１	市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める
評価	概ね妥当

【理由】
総務分科会
・地域のまちづくりにおいて、各地区の課題や現状を認識し、それを解決する取組が展開されている。移住定住についても新規移住相談件数 286 人、ＵＩターン移住者数 156 人と、ＫＰＩの数値からも目標を上回る結果（過去最多）が出せていることは、評価できる。
社会文教分科会
・公民館活動や探究学習が展開され、飯田の文化を通じ郷土愛を育もうとする狙いがみえる。
産業建設分科会
・産業建設委員会が担当する戦略及び紐づく年度戦略⑦から概ね妥当と評価する。

【提言】
総務分科会
・交流人口や事業参加者を増やすことにより、その人たちが地域に定着し、継続的に地域を支える人材となっているかを検証していくことも必要。各戦略において、移住者の定着率、新規出店の継続率、地域活動への継続参加率、組織・事業の見直し後の組織運営（例えば軽減効果や女性参加率）など、中長期的な成果を測る更なる検証に努められたい。
社会文教分科会
・みらい創造科教育の取組は進んでいる。将来こどもたちが「飯田に戻ってきたい」という意識が芽生えるような取組、また基本目標３「飯田（ここ）で育ってよかった」との関わりを持ちながら進められたい。

戦略（考え方）の到達点
◆20 地区の基本構想・基本計画の実現に向けて、地域のつながりを基盤にした持続可能なまちづくりの取組を支援します。小戦略①
評価：概ね良好
【理由】 総務分科会 ・20 地区が作成している基本構想･基本計画を実現していくためには、各地区の課題や現状を認識し、それを解決する取組を推進していく必要がある。その中で、共通課題等の整理（４地区）、地域独自の取組、必要な部分の事業の見直し（16 地区）等に取り組んでいることは評価できる。また、中山間地域においても起業支援や地域おこし協力隊の活用が図られるなど、各地区の実情に応じた取組支援が行われたことは評価できる。
【新たな視点】 総務分科会 ・自治活動組織の理解を深めるため、組合未加入世帯も含めた地域活動（地域の美化活動、防災･減災活動、スポーツ大会など）への参加の視点。

◆地域の問題や関心事について、学習活動や実践活動など住民が主体的に課題解決に挑戦できる環境を整備し、地域を支える多様な人材の育成につなげます。小戦略②
評価：概ね良好
【理由】 総務分科会 ・大学とのネットワークを構築し、地域との連携を図ることにより、地域資源の活用や地域への愛着の醸成につなげていく取組は、評価できる。 社会文教分科会 ・公民館活動を中心に住民同士の関係を築き、地域の探究学習も展開されている。 ・地域を支える多様な人材の育成に取り組んでいる点は評価できる。
【新たな視点】 社会文教分科会 ・市公民館では「ムトスぷらざ」を拠点として、様々な創発活動の基盤づくりを進めていることから、活動の中心となる「ムトスぷらざ」の利用状況をＫＰＩ指標としてはどうか。

◆未来の担い手であるこどもたちにとって「将来も住み続けたいまち」であるため、地域全体でこどもを育む様々な取組を行います。小戦略②
評価：概ね良好
【理由】 総務分科会 ・大学とのネットワークを構築し、地域との連携を図ることにより、地域資源の活用や地域への愛着の醸成につなげていく取組は、評価できる。（再掲） 社会文教分科会 ・みらい教育推進フォーラム等を通して、学園構想に伴うみらい創造科教育の具体的な取組が市民と共有出来ている。 ・こどもたちが地域の自然環境や歴史、文化や芸術そして先人たちの取組を学び経験することで、将来大きくなった時に飯田に戻って来てくれることを信じ取組を継続されたい。

◆20 地区がそれぞれの多様な地域資源を活用し、魅力ある地域づくりに取り組むことで、関係人口の創出･拡大から移住定住を目指す「20 地区田舎へ還ろう戦略」を、地域と行政が協働して進めます。小戦略①・②・③

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・新規移住相談件数 286 人、ＵＩターン移住者数 156 人と、ＫＰＩの数値からも目標を上回る結果（過去最多）が出せていること、各地区の課題や現状を認識する取組（20 地区人口動態分析、モデル３地区等）が進んでいること、地域の交流から関係人口の創出の仕組みが構築しつつあることは、評価できる。

・既に目標を上回っているＫＰＩ⑨・⑩については、更なる目標値を掲げられたい。

社会文教分科会

・学輪ＩＩＤＡとの連携で、専門的な知見から地域の魅力が再発見されている。

・高校生、若者を中心に多様な主体との学習交流を行うことにより、地域を意識させる取組へ繋げようとしている。

・「恒川遺跡」「飯田古墳群」「今田・黒田人形」など地域の財産を活用した取組をしている。しかし伝えることのできる人材育成が課題である。

◆移住定住の推進に向けて、まちづくりの原動力となる若者に「選ばれる地域」となるための様々な取組を全市的に展開します。小戦略③

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・結いターンシップ事業受入体験企業を昨年度よりも 13 社多い 42 社と、若者（移住者）の選択肢を増やせたこと、地域の交流（放置竹林整備活動など）から関係人口の創出の仕組みが構築しつつあることは、評価できる。

◆ムトスの精神による市民活動の輪を広げ、市民活動団体やＮＰＯ法人等による市民や地域が元気になる取組を支援します。小戦略④

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・「ムトスぷらざ」を拠点とした、相談・支援体制が強化されており、団体活動への助成事業などを展開し、市民によるさまざまな交流事業、女性活躍の支援につながっていることは、評価できる。

◆国籍、性別や世代などの違いによる多様な価値観を「豊かさ」として生かし、共に支え合い、共に生きるために、お互いに理解し合う場や、多様な活動を支援します。小戦略⑤

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・次代を担う若年層に対して、市内４高校、１専門学校で「ライフデザインセミナー」を開催し、男女共同参画や将来の生き方を考える機会を提供し、多様な価値観の理解が深まったことは、評価できる。

・前年度行政評価において、後期計画の施策への提言として「日常生活における多文化共生の視点」を指摘させていただき、令和８年度の小戦略から、関係する所管部署と連携した組み立てに変更していただいている。今後の展開に期待したい。

◆伝統文化や人形劇など文化の継承と発展、新たな文化を創造する集いの場としての文化会館の整備に向けた取組、生涯にわたってスポーツに親しむことのできる環境づくりを進めます。小戦略⑥

評価：概ね良好

【理由】
社会文教分科会
・飯田文化会館の長寿命化を進めながら、機能を分散整備する「飯田ひろば」の実現に向けて取り組んでいる。

【新たな視点】
社会文教分科会
・課題認識にもあるが、人形劇や伝統芸能、スポーツ大会等の運営を支える人材の若返りと指導者の育成が課題。「活動の発展と継承を図るための協働の仕組みによる課題解決の継続が必要」とあるが大いに取り組まれたい。

◆歴史と魅力ある施設や空間を生かし、多様な主体と連携･協働しながら、りんご並木を軸としたまちの賑わいづくり、歩いて楽しめるまちなかづくりを進めます。小戦略⑦

評価：概ね良好

【理由】
社会文教分科会
・古い歴史ある建築物に新たな価値が創造され、地域の活性化につなげている。
・「りんご並木を軸としたまちの賑わいづくり」に関して中学生による「並木活動」や「りんご並木未来づくりサポーター」による管理活動の定着等進められている。
産業建設分科会
・取組の課題から令和８年度へ向けて庁内横断的な取組の拡大が見られる。

【新たな視点】
産業建設分科会
・市民や来街者が「歩いて楽しめるまちなかづくり」の視点から、気候変動に伴う暑さ対策施設や、公共トイレの位置などわかるよう、看板やデジタルコンテンツなどによる「見える化」を検討されたい。
・進捗状況確認指標・重要業績実績評価指標（ＫＰＩ）⑲の「歩行者・自転車通行量（人）」については、デジタルの活用などによるデータの取得方法を検討されたい。

◆市民や事業者と共に地域資源の価値を磨き、また、新たな魅力を創造し、共有・発信することにより共感を広げ、市のブランド化や認知度の向上を図ります。小戦略⑧

評価：概ね良好

【理由】
総務分科会
・「イイダのイイネ！」事業は、市民自らが地域の良さを再発見し、共有し合う取組として、地域づくりの当事者意識の醸成、地域への誇りや愛着につながる事業として評価できる。
・地域資源である「飯田焼肉」を軸に事業を展開し、民間活力の推進、地域活性化につなげていることは評価できる。また、ふるさと納税についても、返礼品数、寄附額ともに大幅に伸長しており、財源確保につながっていることは評価できる。

◆20 地区が行う地域振興等に係る取組に関し、デジタル技術を効果的に活用し、関係人口の創出・拡大を図ります。

評価：概ね良好

【理由】
総務分科会
・地域と連携したＩｎｓｔａｇｒａｍ、ＳＮＳやマッチングシステム、オンライン移住セミナーなど、デジタル技術を効果的に活用し、新規移住相談件数 286 人、ＵＩターン移住者数 156 人と、ＫＰＩの数値からも目標を上回る結果（過去最多）が出せていることは、評価できる。

次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性

評価：概ね良好

【理由】
総務分科会
・ 次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性は、概ね良好。
・ 前年度行政評価において、後期計画の施策への提言として「日常生活における多文化共生の視点」を指摘させていただき、令和８年度の小戦略から、関係する所管部署と連携した組み立てに変更していただいている。今後の展開に期待したい。（再掲）
社会文教分科会
・ 課題認識については整理されていた。
産業建設分科会
・ 課題認識を共有するとともに、次年度戦略策定に向けた前向きな方向性が示されている。

【新たな視点】
総務分科会
・ 自治活動組織の理解を深めるため、組合未加入世帯も含めた地域活動（地域の美化活動、防災･減災活動、スポーツ大会など）への参加の視点。（再掲）

基本目標２	人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる
評価	概ね妥当

【理由】
総務分科会
・各地域において、地域と小学校、事業者等との連携した取組など、地域防災力の強化につながる事業を展開していることは、評価できる。また、地域における必要な防災資機材や備品の購入支援を行ったこと、防災備蓄倉庫の建設に着手し災害発生に備えた環境整備を行ったこと、20 地区の地震被害想定調査を実施したことは、公助の取組としても評価できる。一方で、総括にも記述されているとおり、地域コミュニティの希薄化、犯罪手口の多様化による「刑法犯認知件数」の増加が課題となっている。
社会文教分科会
・目標の「人がつながり助け合う」「安心なまちをつくる」に向け、避難行動要支援者支援事業で、介護認定者数が流動的であり高齢による対象者変動等、実態把握が難しい中、新たに 204 件の個別避難計画を作成し避難支援体制強化に取組んでいる。
産業建設分科会
・産業建設委員会が担当する戦略及び紐づく年度戦略⑤から概ね妥当と評価する。

【提言】
総務分科会
・防災訓練等による検証結果、緊急時における地区別実働人数（第 13 次消防力（消防団）整備計画における団員数や組織体制含む）、避難支援体制の状況など、更なる実効性を測る指標を検討されたい。
社会文教分科会
・全国で激甚災害が頻発する中、避難行動要支援者支援事業において引き続き対象者の把握に努められ、介護認定者等の支援体制強化を図られたい。
産業建設分科会
・防災・安全対策に係る社会基盤の強化については、関係部局が連携して計画的に取り組まれたい。

戦略（考え方）の到達点
◆安全・安心な暮らしの実現に向けて、人と人とのつながりを広めて「地域の力」を高めていくとともに、地域のことを地域で考える主体的なまちづくりを支援します。小戦略①
評価：概ね良好

【理由】
総務分科会
・各地域において、地域と小学校、事業者等との連携した取組など、地域防災力の強化につながる事業を展開していることは、評価できる。一方で、20 地区にはそれぞれ地域の特性があり、今後更なる地域防災力の向上を目指していくためには、地域の実状に合わせた事業展開が必要になる。
社会文教分科会
・公民館活動を通じて多世代交流や地域のつながりが深まり、災害時の支え合いに向け、つながる関係性が出来つつある。

【新たな視点】
総務分科会
・各地域の先進事例の共有を図り、地域の実情に合わせて展開していく視点。

◆「自助」の大切さを市民一人一人が認識できる取組を進めます。小戦略②

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・住宅耐震化や家具転倒防止対策、非常持出品準備等についての周知、防災アプリ「結防」の導入を行ったことにより、ＫＰＩ「災害に備え食糧を備蓄していると回答した市民の割合」も 74.2%→79.2%に向上していることは、評価できる。一方で、食糧備蓄の詳細については、個人意識の差などから実態がつかみにくい状況も推測されることから、今後更なる検証・意識啓発に努められたい。

◆災害発生に備えた環境整備をはじめ、防災学習や地震被害想定調査結果を踏まえた対策の検討など公助の取組を更に推進します。小戦略②

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・地域における必要な防災資機材や備品の購入支援を行ったこと、また市内４カ所で防災備蓄倉庫の建設に着手し、災害発生に備えた環境整備を行ったこと、20 地区の地震被害想定調査を実施したことは、公助の取組として評価できる。

社会文教分科会

・福祉専門職との連携で「個別避難計画策定率」が向上している点は評価できる。

◆地域とともにある消防団の組織体制を整備するとともに、消防力・防災力の維持・向上を図ります。小戦略③

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・将来にわたり地域消防力を維持・向上していくための体制整備について検討し、「第13 次消防力（消防団）整備計画」を策定したことは、評価できる。今後も消防団活動がより運用しやすいものとなるよう検証すると共に、必要に応じて制度の見直しを図られたい。

◆安心して暮らすために、日常における市民の防犯意識の高揚をはじめとする犯罪被害防止の取組を進めます。小戦略④

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・特殊詐欺被害等の犯罪被害防止に向けた啓発活動については、出前講座を開催（65 回 1,476 人参加）し、中高生の講座では、ＳＮＳ利用やインターネット取引関連、高齢者や地域の講座では、特殊詐欺への注意喚起を行っていること、広域的な相談窓口となった飯田消費者センターにおいては、年間 1,598 件の相談に対応したことは、評価できる。一方でＫＰＩ「刑法犯認知件数」については、279 件→337 件と増加しており、犯罪手口も多様化し難しい状況であることは推察するが、より一層の注意喚起をお願いしたい。

◆安全・安心な暮らしを支える社会基盤の長寿命化と安全対策を計画的に進めるとともに、自然災害に備え防災・減災・強靭化を図ります。小戦略⑤

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・カーブミラーや路面標示など、緊急性や危険性を踏まえ優先順位の高いものから、交通安全施設整備を行ったこと、交通安全啓発活動等により、市内の人身交通事故発生件数が 141 件となり、前年より 35 件減少したことは、評価できる。今後も電動カートや自転車交通（交通反則通告制度適用など）ルール等の更なる周知・啓発に努められたい。

産業建設分科会

・小戦略⑤の取組の成果から見れば概ね良好と評価する。
特に松尾地区における内水排除機能の安全性と迅速性を大幅に向上させた点は評価する。

・水道の需要拡大については他の部局とも連携し、持続可能な水道事業となるよう努められたい。

【新たな視点】

産業建設分科会

・持続可能な社会基盤構築のため、各種事業計画の適切な見直しとともに、事業が円滑に遂行できるよう、さらに努められたい。

・各種事業計画の適切な見直しに当たっては、限られた財源で効果的な長寿命化・強靭化を進めるため、デジタル技術（点検の効率化やデータに基づく優先順位付け）の活用を検討されたい。

・水道事業に関して、効率化とコスト削減の視点から、近隣自治体との連携について検討されたい。

◆平時における動画等を活用した防災学習や大規模災害時に備えた防災ＤＸに取り組みます。小戦略②

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・公開型ＧＩＳ「いいだ Web マップ」を活用した情報収集・公開訓練、防災アプリ「結防」の導入等、地域防災力の強化と防災 DX の取組として、評価できる。

次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性は、概ね良好。

社会文教分科会

・個別避難計画を地区防災計画や実践へ反映させるとともに防災ＤＸと関連させ、災害への対応力の向上を図ろうとしている。

産業建設分科会

・課題認識を共有するとともに、次年度戦略策定に向けた前向きな方向性が示されている。

【新たな視点】

総務分科会

・各地域の先進事例の共有を図り、地域の実情に合わせて展開していく視点。（再掲）

基本目標３	飯田で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる
評価	概ね妥当

【理由】
総務分科会
・総務委員会が担当する小戦略⑧（一部）・⑨、それに伴う戦略については、すべて概ね良好と評価したため。
社会文教分科会
・切れ目のない子育てへの相談支援体制の整備と地域でこどもを育てる機運の高まりにより、地域社会での見守りの視点が向上してきている。学校をはじめ施設及び居場所の環境整備も進んでいる。
・年度戦略を進める上で、地域社会全体でこども・若者の視点による「こども若者まんなか社会」の取組が重要であるとの視点が見て取れる。
産業建設分科会
・産業建設委員会が担当する紐づく戦略及び年度戦略③⑧から概ね妥当と評価する。

【提言】
社会文教分科会
・飯田市こども若者まんなかプランにあるこども・若者の視点を重視し、地域でこどもを育てる取組の更なる地域展開を図られたい。

戦略（考え方）の到達点
◆こども・若者の意見を聴き、大人も一緒に考え、実現することで、自己有用感や自己肯定感を感じることができ、積極的に物事に関わろうとする文化、風土を醸成します。小戦略①
評価：概ね良好

【理由】
社会文教分科会
・ウェブ調査により若者の意識調査をするなど、日頃から若者や子育て当事者の声を聴く機会を設けている。
・子育て世代から特に要望の多かった「雨天や猛暑でも親子で遊べる施設」整備について「声を聴く」にとどまらず令和８年度から市民会議を設置し基本構想の検討を始めた。このことは「形」にしていく「対話の循環」により「自分の意見で未来は変えられる」と誰もが実感できる社会に近づいたと考えられることから評価できる。

◆発達段階に応じて自然や文化・芸術に触れ、多様な人と関わる実体験や経験、地域との関わりを持ちながら、生涯にわたって、主体的に他者と協働しながら自らの未来を描き、その実現に向けて生き抜いていける力の基礎を育みます。小戦略③④⑤
評価：概ね良好

【理由】
社会文教分科会
・多様な人との交流する機会を創出し、豊かな学びとなっている。
・学校図書館管理システムが全小中学校へ導入され、児童生徒の読書意欲の向上につながっている。
産業建設分科会
・地域循環型農業推進事業における「みやまし農産物認証数」が増加していること。また、学校給食の食材として「みやまし農産物」や「有機米」を取り入れるなど地産地

消の取組が推進された。

◆妊娠、出産、育児・子育ての心配や不安など個々のニーズに寄り添い、子育てに魅力を感じられるよう、継続した効果的な相談・支援に取り組みます。小戦略②⑥

評価：概ね良好

【理由】

社会文教分科会

・妊娠期から切れ目のない相談や支援が提供されている。
・母子保健コーディネーターの配置や、アンケートの実施、電話相談など途切れない相談体制を進めている。
・少子化の中、母子保健や児童福祉部門、産科医療機関との連携により早期からの妊産婦支援を実施している。
・子育ての孤立防止を掲げているので「つどいの広場」への支援について総括で触れられていないが、総括が必要ではないか。

【新たな視点】

社会文教分科会

・不妊不育症治療に際し治療費助成事業はあるが償還払いであり経済的負担が大きい。不妊不育症に悩んでいる方へ寄り添った仕組みとなるように見直しを進められたい。
・こども家庭センター（こども未来健康部）の事務所が物理的に一体となっていないため、センター機能が分散している。市民目線だけでなく、様々な目線で課題を精査されたい。

◆未来を見据えて地域の良さを生かしながら、全てのこどもにとって魅力ある学びの環境づくりを進めていきます。小戦略③④⑤

評価：概ね良好

【理由】

社会文教分科会

・信州やまほいくの「いいだ型自然保育」の特徴を生かし地域行事への参加等、地域愛の中で「たくましく」「健やかに」成長している。
・ネットトラブルの専門家による窓口相談を実施している。
・「みらい創造科」の先行的実践を通じて、こどもの「主体的な学び」を起点とした授業改善が進んでいる。

【新たな視点】

・部活動は令和８年度末までに休日部活動を、９年度末までに平日部活動を地域展開するとしているが、文化部（美術部・人形劇等）の地域展開について、受け皿や活動場所が見えていない。見える化を進められたい。

◆様々な困難を抱えるこども・若者や家庭を誰一人取り残さず、その特性やニーズに応じた相談等に寄り添ったきめ細かな支援を途切れなく提供します。小戦略②④⑥

評価：概ね良好

【理由】

社会文教分科会

・支援の必要性が高い家庭の課題解決に向け、当事者ニーズに沿った支援方針の作成や、支援員の訪問など、きめ細かな支援が出来ている。
・教育支援指導主事による学校支援により不登校支援を「チーム」で取り組むことにより、小中学校の不登校児童生徒数を若干の増加で抑えることができている。引き続き不登校児童生徒数の減少を目指して取組を進められたい。
・５歳児相談は、その家族にとって子育ての見通しを示す大事な取組であり、こどもの発達特性への支援が進められている。

◆こども・若者の健全な育成を実現するため、ライフステージにあわせた経済的（家計）支援に取り組みます。小戦略②③⑦

評価：概ね良好

【理由】

社会文教分科会

・主任児童委員による生後４か月頃の赤ちゃん家庭訪問時の燃やすごみ袋配布が、経済的・精神的負担軽減に繋がっている。

・結婚新生活支援事業では市の単独補助も行われており、結婚する若者を増やすためにも、経済的支援を継続されたい。

・国の無償化対象外の３歳未満児の保育料と３歳以上児の副食費の負担軽減により、保護者の経済的負担を軽減している。

◆安心して利用できる公共施設や社会基盤の整備、通学路安全対策等をこどもの視点も取り入れて整備します。小戦略⑧

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・通学路安全対策アクションプログラム及び危険個所安全点検の調査結果に基づき、上郷ゾーン 30 プラス地区の整備、松尾地区の通学路路面標示、危険個所の路面標示等の対策など、緊急性や危険性を踏まえ優先順位の高いものから、交通安全施設整備を行ったことは、評価できる。また、「通学路安全検討庁内会議」及び「飯田市通学路安全対策検討委員会」の開催により、通学路の安全確保に関する関係部課等の情報共有と連携強化が行われていることは評価できる。

社会文教分科会

・安心安全な教育、保育環境の整備改修を進めており、空調設備導入へ向けた予算措置を施している。

・通学路安全対策アクションプログラムの推進がみられる。

産業建設分科会

・建設部として地域や学校と連携し、地域理解を得ながら公共施設や社会基盤の整備に取り組んでいる。

・飯田動物園の維持管理が持続可能となるよう来園者数の維持及び増加に向け、市民が「また行きたい」「連れていきたい」と思えるような季節企画等により、新規来園者とリピーターの増加につなげられたい。

◆若者がこの地域に暮らしながら学びを深め、希望をかなえることができる環境の充実に取り組みます。小戦略③⑨

評価：概ね良好

【理由】

総務分科会

・高校生への探究学習支援と地域連携においては、フィールドスタディや「いいだ高校生ＥＳＤ塾」を通じ、大学教授や学生からアカデミックスキルを学ぶ機会を提供したこと、学輪ＩＩＤＡメンバーの天文学者と美術博物館研究員の連携により、飯田学輪大学講座を開催し、そのことが発端となり、長野県初の「星空保護区」認定に向けた取組が進められたことは、評価できる。

・信州大学のグリーン水素研究の講演会を開催し、将来の学部設置等を見据えた高等教育環境充実に向けた意識醸成につなげたことは、評価できる。

社会文教分科会
・大学連携コーディネーターを配置した点と、高校生や大学生と連携した取組がなされている。
・「飯田市学びの支援補助金」を飯田短期大学、飯田コアカレッジの学生に交通費の一部として交付し、地域外で実施される資格取得試験の負担軽減を図っている。

【新たな視点】
総務分科会
・大学との連携について、高校生・大学生の地域との継続的な関係やＵターン・地域就職など若者定着への効果、研究成果の地域への貢献度など、更なる実効性を検証する視点。

◆こども・若者からの意見聴取や様々な子育て情報発信の手段として、デジタル技術の活用を推進します。小戦略①②③④⑥⑦⑧

評価：概ね良好

【理由】
社会文教分科会
・導入可能な部分からＤＸを推進し、市民の負担の軽減や利便性の向上、見える化が進められたことから評価できる。

次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性

評価：概ね良好

【理由】
総務分科会
・次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性は、概ね良好。
社会文教分科会
・出生数の減少など少子化の流れが止まらない現状を踏まえ、子育ての孤立化などのハイリスクへアウトリーチの取組を進め世代毎の課題へ向き合っている。

【新たな視点】
総務分科会
・大学との連携について、高校生・大学生の地域との継続的な関係やＵターン・地域就職など若者定着への効果、研究成果の地域への貢献度など、更なる実効性を検証する視点。（再掲）

基本目標４	自然と共に歩む豊かな循環型社会をつくる
評価	概ね妥当

【理由】
・環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」の取組をはじめ、基本目標４に係る具体的な戦略は一定の成果が生まれており、概ね良好と評価をした。一方で、「環境への取組が文化になるまで」という飯田市が掲げる目指す都市像「環境文化都市」の認知度は大きく減少（58.7%→41.1%）しており、同様に環境施策のＫＰＩとなっている「家庭から排出されるごみのリサイクル率」、「エシカル消費を日常的に心がけ実践している人の割合」も減少している状況。

【提言】
・市民の行動変容を成果として評価できる仕組みを構築し、環境文化都市を前面に出した大きな政策を展開されたい。

戦略（考え方）の到達点
◆環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」を通じて環境文化都市の理念浸透や意識変革を市民に広く働きかけるとともに、地域資源を生かした環境学習を進めることで一人一人の行動変容を促します。小戦略①
評価：概ね良好
【理由】 ・環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」の取組や、環境講座出前講座（104 回 5,161 人参加）の開催、小学４年生を対象としたポスター作成（応募者過去最高 705 人）など、環境意識が高まる事業を展開したことは、評価できる。一方で、KPI「環境文化都市の認知度」について 58.7%→41.1%と大きく減少していることは、大きな課題。
【新たな視点】 ・関係部署とも連携し、熱中症対策を進め、命を守るための気候変動適応を更に進める視点。 ・市民の行動変容を成果として評価できる仕組み、環境文化都市を前面に出した大きな政策展開の視点。

◆サーキュラーエコノミーへの移行を視野に入れ、３Ｒを更に推進するとともに、水などの循環利用の研究を進め、消費者、事業者に対しても新たな資源循環について理解が深まるよう働きかけます。小戦略②
評価：概ね良好
【理由】 ・ごみ分別啓発袋を新たに作成し市民に配布することで、雑紙を燃やすごみとして出さずに紙資源としてリサイクルできることの啓発、「さんあ～る」アプリによるごみの分別の啓発など、３Ｒの推進につながる取組を行ったことは、評価できる。水循環の取組については、今後の取組に期待したい。
【新たな視点】 ・利便性や行動変容を視野に入れたリサイクルステーションの検証の視点。 ・プラ資源の細分化の視点（特に自動車に使用されるプラスチック部品のリサイクルについて、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム第３期を参考に）。併せて、市民の利便性、リサイクルの質（細分化）や量（効果）、企業の需要など、全体のバランスを考え検証していくことも必要。

◆2050 年いいだゼロカーボンシティ実現に向けて、エネルギーの見える化を進め、エネルギーの効率的利用をはじめとした省エネルギーを促進するとともに、グリーン水素利活用の研究や地域産再生可能エネルギーの創出及び利活用を進めます。小戦略③

評価：概ね良好

【理由】
・太陽光発電設備や蓄電設備システム、太陽熱温水器、薪ストーブなどへ補助を行うことで、エネルギーの脱炭素化を推進したこと、地域マイクログリットについて、自律運転機能の動作性が確認できたことは、評価できる。

◆ネイチャーポジティブの実現に向けて、生物多様性への理解を深め、地域の豊かな自然環境の保護及び利活用を進めます。小戦略④

評価：概ね良好

【理由】
・ネイチャーポジティブ（自然再興）に向けた基礎調査として実施した、文献調査と有識者会議を通じて、保全戦略策定に向けた科学的道筋をつけることができたこと、南アルプスユネスコエコパークの登録更新ができたことは、評価できる。

【新たな視点】
・飯田市が「生物多様性の宝庫」であることの啓発活動、そのことの周知を図る視点。

◆一人一人の行動変容を促すため、エネルギーの見える化の研究や３Ｒの啓発に向けた情報発信にデジタル技術を活用します。小戦略⑤

評価：概ね良好

【理由】
・「さんあ～る」アプリの普及を図り、日常的に３Ｒに関する情報を取得できる環境を整備したこと、事業者に対して、エネルギーコスト削減促進事業補助金や制度資金活用と連動させたＣＯ２排出量可視化支援を実施したことにより、脱炭素に対する意識醸成につなげたことは、評価できる。

次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性

評価：概ね良好

【理由】
・次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性は、概ね良好。

【新たな視点】
・関係部署とも連携し、熱中症対策を進め、命を守るための気候変動適応を更に進める視点。（再掲）
・市民の行動変容を成果として評価できる仕組み、環境文化都市を前面に出した大きな政策展開の視点。（再掲）
・利便性や行動変容を視野に入れたリサイクルステーションの検証の視点。（再掲）
・プラ資源の細分化の視点（特に自動車に使用されるプラスチック部品のリサイクルについて、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム第３期を参考に）。併せて、市民の利便性、リサイクルの質（細分化）や量（効果）、企業の需要など、全体のバランスを考え検証していくことも必要。（再掲）
・飯田市が「生物多様性の宝庫」であることの啓発活動、そのことの周知を図る視点。（再掲）

基本目標５	誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる
評価	概ね妥当

【理由】
・戦略の評価から概ね妥当と評価する。

【提言】
・基本目標５「誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる」との大きな視点から、リニア・三遠南信道時代を見据え、国内外への情報発信の強化ならびに販路拡大の推進と、ＡＩ・ＤＸ・ＧＸ分野の活用と連携の更なる強化に取り組まれたい。
・最新の技術を取り入れた農林水産業等の第一次産業が、今以上に魅力あふれる仕事として認知されるために、市民による取組や係わりをさらに推進し次世代につながる産業となるよう尽力されたい。

戦略（考え方）の到達点

◆地域の全ての産業を支える担い手を育成･確保するため、若者や親世代に地域産業の魅力を伝えるとともに、誰もが多様な働き方ができ、安心して働き続けられる環境づくりを支援します。小戦略①②

評価：概ね良好

【理由】
・小戦略①②の内容評価から概ね良好と評価する。
・ＫＰＩ①「新規高校・大学等卒業者 の地域内就職率（％）」は令和６年度から 2.9 ポイント低下しており目標とする 45.0％へ到達するには施策の課題等の洗い出しや目標値が現実的な数値となっているかしっかり検証されたい。
・女性テレワーカーの就職後の状況把握について検討されたい。

【新たな視点】
・ＫＰＩ①「新規高校・大学等卒業者 の地域内就職率（％）」の考え方として、施策や取組内容に連動した現状の数値から、より現実的な目標値に設定するなど目標値について検討されたい。
・地域内就職率が高い市内の短大や専門学校で学んだ学生はこれからの飯田市を支える担い手となるため、様々な支援をはじめ連携や係わり等のさらなる充実に取り組まれたい。
・起業や新規就農おける空き店舗や空き家活用の見える化(例えば指標(ＫＰＩ)の設定)を検討されたい。

◆地域産業の更なる成長に向け、企業の稼ぐ力を高めるため、大学等との連携を図り、地域産業の高付加価値化･ブランド化に取り組みます。また、次世代空モビリティ・水素分野をはじめとする新産業への取組と脱炭素社会の構築への挑戦を支援します。小戦略②④

評価：概ね良好

【理由】
・小戦略②④の内容評価から概ね良好と評価する。

【新たな視点】
・「環境文化都市」を掲げる飯田市において、グリーン水素をはじめとする「飯田市水素利活用ビジョン」の取組には期待する一方で、産業や経済の視点で、その都度状況や進捗を確認し、新産業への取組と脱炭素社会の構築などのタイミングを見誤ることのないよう注視しながら進められたい。

・信州大学をはじめ学輪ＩＩＤＡで来飯、連携している他の大学との係わりが、当市の産業の活性化につながるよう大学教員などとの人脈を活用し、専門的知見の有効活用に取り組まれたい。
・飯田市のブランドとして確立している「日本一の焼き肉のまち」において、食肉加工施設は市ならびに南信州地域にとって大きな課題であるため、広域的な取組の検討など課題解決のための方策に積極的に取り組まれたい。

◆南信州地域が旅の目的地となるように、多様な主体が参画した取組により遠山郷、天龍峡等への誘客を図ります。また、地域固有の風土、人々の営み等の地域の魅力や資源を活用して、サステナブルツーリズムを推進し、リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の開通を見据えて関係人口の創出･拡大に取り組みます。小戦略③

評価：概ね良好

【理由】
・小戦略③の内容評価から概ね良好と評価する。

【新たな視点】
・西部山麓エリアをはじめとする市内の様々な資源を活用した周遊滞在型観光の更なる推進のために、遠山郷、天龍峡、丘の上への誘客を起点として、指定管理者や各地域の思いや取組を最大限に活かしながら、さらなる観光振興に取り組まれたい。
・星空保護区の認定取得を目指すとともに、より尖った具体的な取組として、標高の高いキャンプ場をはじめとした飯田市内で楽しめる星空を新たな観光資源として位置づけ、PR するとともに観光事業の更なる推進に取り組まれたい。また、近隣町村との広域連携により滞在型観光や周遊促進につなげられたい。

◆地域の産業において、域内生産･域内消費･域内発注･域内調達により地域からの所得の流出を低減するとともに、外部環境の影響を受けにくく環境負荷低減に寄与する地域内経済循環の取組を推進します。また、農業や林業が持つ多面的機能の理解を深め、豊富な資源や景観を活用する視点から、「農ある豊かな暮らし」を推進します。小戦略④

評価：概ね良好

【理由】
・小戦略④の内容評価から概ね良好と評価する。

【新たな視点】
・「農ある豊かな暮らし」を推進するためにも耕作放棄地解消が喫緊の課題であり、令和８年度からの新たな取組であるレクリエーション農園の活用推進など、一般市民や、企業等の農地利用促進とともに、これらを活用する市民をサポートする仕組みを検討されたい。

・地産地消の取組については、地域農産物の PR による消費拡大とともに更なる意識啓発や情報発信など、市民への地産地消の意識醸成から行動変容につながるようより力強く推進されたい。
・木材生産量の増加につなげるために森林経営管理制度を活用し、長期的かつ集中的な森林施業が可能となるよう引き続き取り組むこと。架線集材等を活用した効率的な施業に関して、市が率先して助言や支援に取り組まれたい。

◆リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の開通を見据えて産業用地等の整備を進め、地域の特性・強みを生かして企業･事務所機能等の誘致に取り組みます。また、脱炭素社会の構築への取組を進める企業の新規立地や拡張を支援します。小戦略⑤
評価：概ね良好
【理由】 ・小戦略⑤の内容評価から概ね良好と評価する。
【新たな視点】 ・産業用地やオフィス誘致の推進に向けては、デベロッパー等の民間事業者から広く意見を聴取、集約し、市場ニーズを反映させた企業誘致施策となるよう取組まれたい。

◆デジタル人材の育成と情報通信技術関連企業・人材の誘致・確保に取り組み、デジタル技術活用等により事業者の省力化と、生産性・サービス向上の促進を支援します。小戦略①②④
評価：概ね良好
【理由】 ・小戦略①②④の内容評価から概ね良好と評価する。

次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性
評価：概ね良好
【理由】 ・これからの重要な課題である人材確保や人材育成については同じ認識である。今後も分野横断的に注視していく必要がある。 ・信州大学南信州サテライトキャンパスの地域貢献度が見えてこないため市民が納得できる取組になっているかがわかるよう、さらなる見える化が必要。

基本目標６	誰もが生涯を通じてその人らしく暮らすまちをつくる
評価	概ね妥当

【理由】
・健康いいだ 21 により誰もが健康寿命促進の取組へ関わることができ、地域支え合いの福祉へ具体的な活動により進めている。

【提言】
・障害の有無に関わらず、健康いいだ 21（第三次）のキャッチフレーズ「～市民一人ひとりが自分らしく満足できる生涯を送るために～」にあるように、更に市民の健康づくり・健康維持を進められたい。

戦略（考え方）の到達点

◆共に支え合い、助け合い、誰もが住み慣れた地域で暮らすことができる地域共生社会の実現を目指して、多様な主体と協働し、地域福祉を推進します。小戦略①

評価：概ね良好

【理由】
・地域福祉コーディネーターが様々な機関と連携を図り地域福祉を推進している。
・活動を進める上で重要な役割を担う、民生児童委員の成り手不足が深刻な課題である。

◆福祉課題を抱えた市民の孤立を防ぐため、多様な主体が連携して問題解決を目指す仕組みを構築し、世代や属性を超えた交流の場や個々のニーズに応じた居場所を整備するとともに、アウトリーチ等を通じた支援をします。小戦略②

評価：概ね良好

【理由】
・福祉まるごと相談窓口機能の周知が進み、断らない窓口として機能充実が図られている。
・重層的支援体制整備事業の一部を社会福祉協議会に委託し、生活困窮者自立支援事業との連携により途切れない支援体制を構築した点は評価できる。

◆研修会や広報活動等を通じて、市民の障がいに対する正しい理解を深め、障がい者が安心して地域で生活し、社会参加できるよう、差別や虐待のないまちを目指します。小戦略③

評価：概ね良好

【理由】
・基幹相談支援センターを飯田市が令和９年度に設置する方向性が決まり、総合相談窓口の設置見通しがついたこと。
・医療的ケア児等コーディネーター（２人）の活動により医療、教育機関、障害福祉サービス事業等、スムーズな連携がとられ必要な支援に繋がっている。

【新たな視点】
・歯科・眼科など障がい者にとって受診機関が限られており、更に治療へのリスクから治療を断念することもあると聞く。誰にも分け隔てない医療提供の在り方を示されたい。

◆全世代に向け自身の健康維持や健康増進の取組を推奨し、年代に応じた健康づくりの取組により、生活習慣病予防や重症化予防、歯周病予防及び将来の介護予防を推進します。　小戦略④

評価：概ね良好

【理由】
・歯科検診に、中高年以降に急速に歯を失う傾向にある 50・60 歳が加えられ、歯科検診の重要性を伝えている。
・「全世代に向け」と言う点と「年代に応じた健康づくり」と言う点では第三次健康いいだ 21 の推進により出前健康講座や消防団健康教室等、開催している点は評価できる。

【新たな視点】
・ＫＰＩ指標の⑤国保特定検診受診率については、高齢になるほど受診しない方が増加するなどの事情から実態がつかみにくい。年代別の指標とすることを検討されたい。（例：65 歳以下、66 歳以上）

◆高齢者が自分らしく充実した生活を目指し、健康づくりや介護予防、重度化防止に意欲的に取り組み、積極的に地域や社会で活躍するよう支援します。　小戦略⑤⑥

評価：概ね良好

【理由】
・地域包括支援センターを７拠点と充実を図り、高齢者福祉の拠点整備が進んでいる。
・集団検診、地域の健康教室等でフレイルや低栄養、糖尿病等、予防教室を開催している。
・健康ポイント事業の見直しにより、フレイル予防事業の充実を図っている。

◆医療･介護サービスの提供体制を維持するため、担い手の確保や従事者の離職防止、関係団体との連携強化に取り組みます。　小戦略⑦⑧

評価：概ね良好

【理由】
・物価高騰により厳しい経営状況にある救急告示医療機関に対する財政支援が行われた。
・介護職員確保等に向けた補助金を継続して実施し、また、「介護助手養成講座」等を開催し人材確保を行った。

◆デジタル技術の活用により、市立診療所などの医療体制の充実を図ります。
小戦略⑦

評価：概ね良好

【理由】
・診療所の新規開業・継承を支援する制度について検討を行い、令和８年度予算化を進められた。
・国民健康保険南信濃診療所の開設をみるなど、健康づくりの拠点整備が進んでいる。
・上村診療所へ電子カルテの導入検討がされ、令和９年度導入の方針が固まった。

次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性
評価：概ね良好
【理由】 ・基幹相談支援センターの設置など、下伊那郡内町村との連携（定住自立圏協定）により支え合い助け合う活動が広がりを見せている。 ・重層的支援など体制を整え、全世代の健康寿命促進を図っている。 ・地域医療を担う医師や看護師の確保、介護人材の確保は非常に重要な課題であり、今後も更なる人材確保対策を継続した取組として進められたい。

基本目標７	リニア・三遠南信道時代に向けたまちの基盤をつくる
評価	概ね妥当

【理由】
・戦略の評価から概ね妥当と評価する。

【提言】
・「リニアに寄りかかりすぎないまちづくり」「地に足の着いたまちづくり」を念頭に置きつつ、リニア開業と三遠南信道の効果を市全体へ広げるため、戦略的な土地利用を引き続き推進されたい。

戦略（考え方）の到達点
◆リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の開通を見据えた土地利用や景観のあり方を全市的な視点で検討を行うため、まずはリニア駅周辺及びその近郊における喫緊の課題から検討、見直しに取り組みます。小戦略①
評価：概ね良好
【理由】 ・小戦略①の内容評価から概ね良好と評価する。
【新たな視点】 ・今後も「まちの未来図(案)たたき台」を活用した市民との対話が必要であり、「市民との対話の場」「市民と考え方を共有できる場」となるよう取組の更なる推進と、多くの市民が関心を持てる情報発信に努められたい。

◆リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かすため、関連道路等の整備による広域的道路ネットワークの強化を図るとともに、リニア開業の遅延に関わらず選ばれ訪れたくなるような地域の形成を目指した拠点間道路ネットワークの整備を推進します。小戦略②
評価：概ね良好
【理由】 ・小戦略②の内容評価から概ね良好と評価する。
【新たな視点】 ・産業・観光拠点を結ぶ回遊性の高い道路軸の形成により、近隣町村と連携した広域道路ネットワークを最大限活用し、三遠南信道開通の効果を活かしながらリニア開業時期に左右されない魅力ある地域づくりを飯田市がトップリーダーとして広域的視点を持ちながら推進されたい。

◆リニア駅前広場の賑わいをつくり、一部供用に向けて運営方法の検討を行うなど段階的な活用を目指し、関係機関との調整を図ります。また、関係者等の意向や環境影響に十分配慮しながらグリーンインフラの考え方を取り入れ、自然と調和した利便性の高いリニア駅前広場の整備を進めます。小戦略③
評価：概ね良好
【理由】 ・小戦略③の内容評価から概ね良好と評価する。 ・リニア駅前広場が交流・観光・防災の拠点として機能するよう、民間活力を活用した賑わい創出と、地域資源を生かした魅力ある空間づくりをさらに推進されたい。

【新たな視点】
・リニア駅前広場が交流・観光・防災の拠点として機能するよう、民間活力を活用した賑わい創出と、地域資源を生かした魅力ある空間づくりをさらに推進されたい。
・飯田・リニア駅前広場プラットフォームをはじめとしたリニア駅前広場の賑わいづくりには、プラットフォームに関係する事業者だけでなく、広く一般的な市民も気軽に関わり意見が言える場をより多くもうけられるよう取り組まれたい。

◆リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の開通に向けた機運醸成を図るため、市民への適時適切な情報を発信します。小戦略④

評価：概ね良好

【理由】
・小戦略④の内容評価から概ね良好と評価する。

【新たな視点】
・リニア本線や駅前広場関連の情報の随時発信は継続されているが、駅前広場の整備がどのように地域振興につながるのか、分かりやすく伝える情報発信や方策の充実をさらに図られたい。

◆次世代モビリティやデジタル技術を活用し、目的地へ円滑にいざなうことができるリニアからの二次交通の検討を進めるとともに、路線ごとの利用特性やニーズの把握を行い利用者が使いやすい持続可能な地域公共交通の構築に取り組みます。小戦略⑤

評価：概ね良好

【理由】
・小戦略⑤の内容評価から概ね良好と評価する。

【新たな視点】
・リニア駅を起点とした Maas をはじめ、オンデマンド交通などについては、新しい技術を活用した二次交通のさらなる研究に務められたい
・地域公共交通が持続可能なものとなるよう、現在活用できる技術の導入と活用の検討を進めるとともに、医療・買い物・学生の移動など日常利用も見据えた、誰もが利用しやすい二次交通の構築を推進されたい。

次年度（８年度）戦略策定に向けた課題認識と今後の方向性

評価：概ね良好

【理由】
・課題認識を共有するとともに、次年度戦略策定に向けた前向きな方向性が示されている。